

インナーモールの形成

貫通路としてインナーモールを形成し、快適な内部歩行空間を整備する。また、インナーモールと街路をつなぐような中間領域を設けることで、街の奥行きを演出する。



街の奥行きを作る中間領域 イメージ

表情豊かな低層部の計画

低層部の店舗配置に変化をつけて店舗の表面積を大きくし、視覚的な変化の連続性により、にぎわいを演出する。



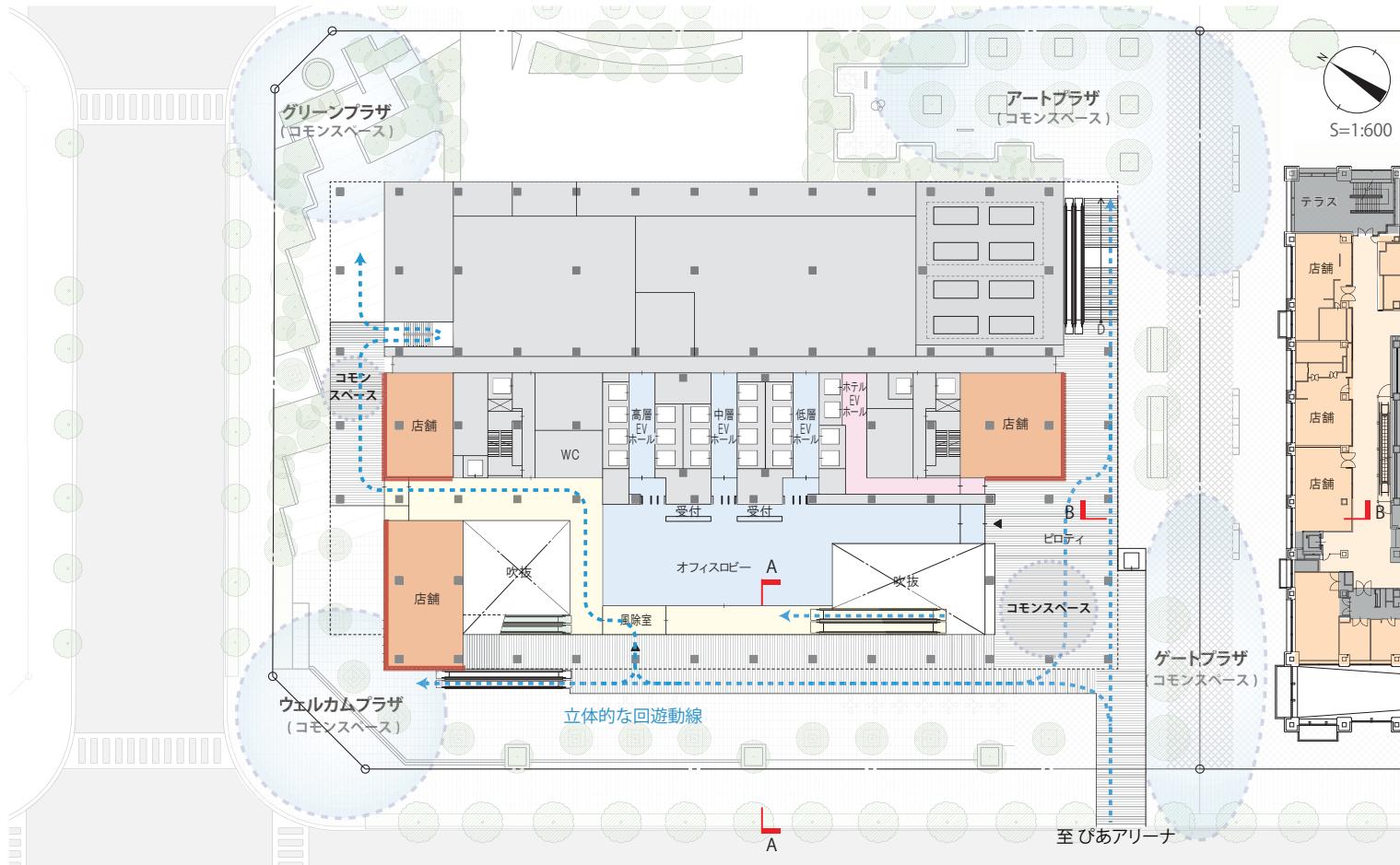
ひだ状の配置による表情豊かな店舗空間 イメージ

「芸術と文化軸」のにぎわい

「芸術と文化軸」に沿って、店舗やアート、ストリートファニチャーを設置し、また舗装や植栽を一体的に整備することで、軸線としての多様なにぎわいを創出する。

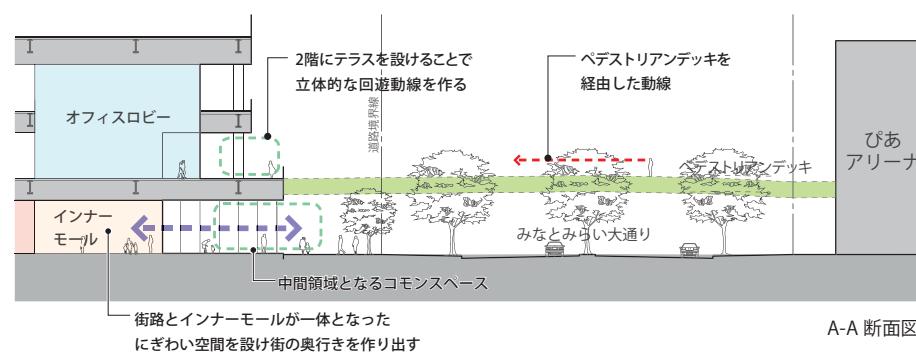


軸線を彩る多様なにぎわい イメージ



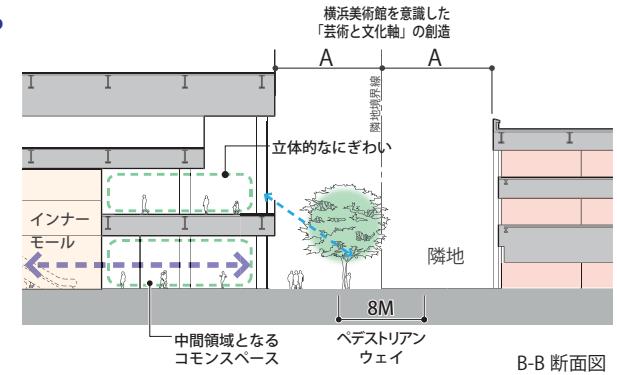
みなとみらい大通り沿いの立体的なにぎわい

みなとみらい大通り沿いにテラスを設け、回遊動線を整備する。
テラス、街路とインナーモールが一体となった立体的にぎわいが、街の奥行きを創り出すことに寄与している。



新しい都市軸をつくる

「芸術と文化軸」に沿って
2階テラスも含めて、大小
様々な中間領域となる二
モンスペースを作り出す。

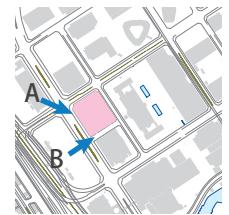




A: みなとみらい大通りからウェルカムプラザを臨む



B: 「芸術と文化軸」を見通す



■ 夜間の景観形成の方向性をリサーチにより導き出す—「遠景」、「中景」、「近景」のあり方

遠景…頂部のライトアップにより、新たな夜間景観のスカイラインを形成する
中景…分節化された建物ボリュームを際立たせ、オフィス・ホテル・商業それぞれの機能を特徴づけるような照明計画
近景…それぞれの通りの個性に応じた4つにぎわいあるプラザから漏れ出すような暖かな光

□遠景

みなとみらいに多く存在する視点場の中でも最も本計画が際立つポイント。夜景においてもクイーン軸のスカイラインが都市の魅力として表出している。



□中景

建物の全体感が見えてくる。中層部のオフィスや高層のホテルの光が、ボリュームとして立ち現れる。



□近景

近隣の美術館やぴあアリーナ、住宅等との関係を各コーナーごとに特色を出しながら深化させ、魅力的な表情を創出する。



□計画地周辺の照度分布

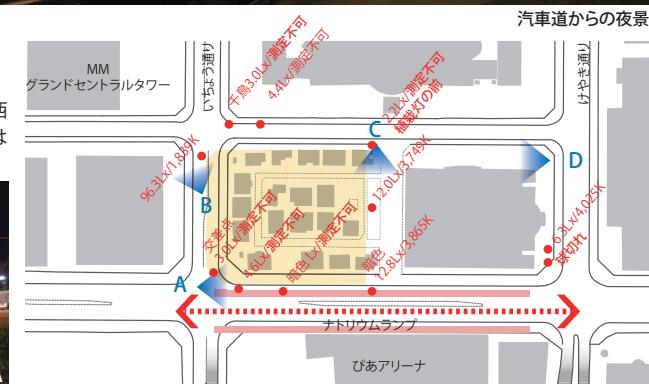
A: みなとみらい大通り

計画地沿いに水銀灯が点灯し、特に北西の交差点付近の照度は4Lx程度。現状は少々暗い印象。



B: いちょう通り

低層部は明るくにぎわいがある。本計画においても3000K程度の温かな光環境を整え、にぎわいを面的につなげていく。



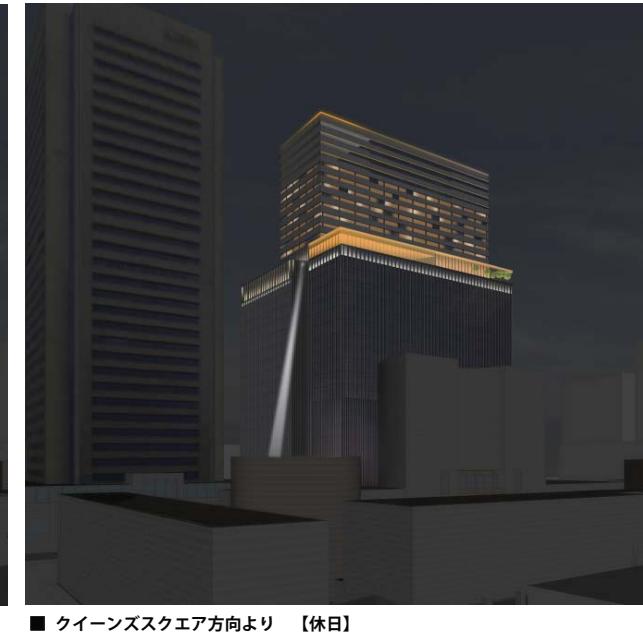
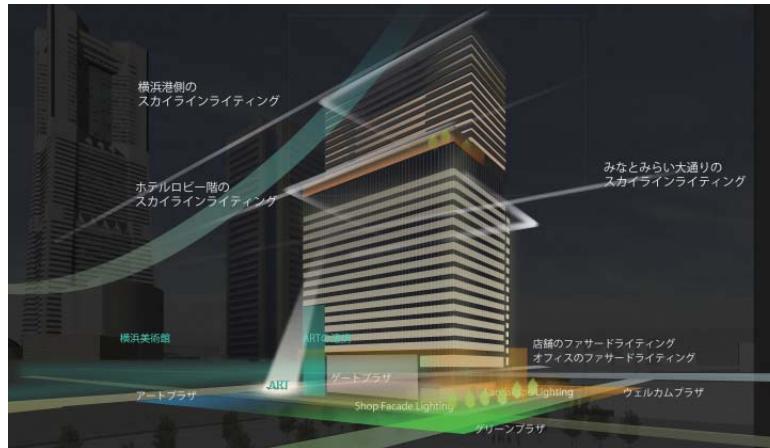
C,D: 横浜美術館・三菱重工ビルとの境界エリア

「芸術と文化軸」として、景観形成ガイドラインに則り、魅力的な都市空間となるような夜間景観を考える。



生き生きとした建物の活動を夜間に表出する景観照明－“Alive Light”

建物の生き生きとしたアクティビティを直截に景観照明として表出させることを意図し、本計画の照明コンセプトを「Alive Light」と名づける。それを、遠景:「濱風」、中景:「Lighting Box」、近景:「Art Access Lighting」という3つのコンセプトライトに翻訳する。





汽車道から望む